

講義コード	1116530005
講義名称	心理学B 05<秋>
科目英文名	Psychology B
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	0PSY2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小松 佐穂子

授業形態	講義	アクティブラーニング	その他
			簡単な心理テスト・調査の実施

アクティブラーニングの 詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。	
	コメントシート	体験学習(実習、実験)

講義・演習概要	この授業では、「現代の心を取りまく課題と心理的支援」について概説する。 教育や臨床の場面では、さまざまな心の問題に対処するため、心理学理論を応用して研究開発された「心理的支援」に関する理論と技法が利用されている。現代の心の問題と心理的支援の実際について、「現代の心を取りまく課題」「日常生活と心の問題」「心理学的アセスメント」「カウンセリングと心理療法」の観点から基礎的知見と研究成果を概観し、現状と課題および展望について考察する。
学習（到達）目標	・現代の心を取りまく課題と心理的支援の実際について理解している。 ・日常生活と心の健康との関係を理解している。 ・心理学理論と心理的支援の技法を応用して、さまざまな心の問題を探究し適切な対応策を考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：現代の心の問題と心理的支援
第2回	現代の心を取りまく課題①：脳と心
第3回	現代の心を取りまく課題②：アタッチメントの形成とその障害
第4回	現代の心を取りまく課題③：発達障害
第5回	現代の心を取りまく課題④：発達障害児への教育的支援
第6回	現代の心を取りまく課題⑤：児童虐待問題とその対策
第7回	日常生活と心の問題①：ストレスとメンタルヘルス
第8回	日常生活と心の問題②：心理病理と精神疾患
第9回	心理学的アセスメント①：アセスメントの基本的考え方
第10回	心理学的アセスメント②：アセスメントの実際
第11回	カウンセリングと心理療法①：カウンセリングの理論と技法
第12回	カウンセリングと心理療法②：クライエント中心療法と精神分析学
第13回	カウンセリングと心理療法③：行動療法と認知行動療法
第14回	心理的支援の課題と展望
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	①授業ごとにその内容に関するコメントの提出(M-Portを通じウェブ提出)を求め、授業への主体的・積極的な参加状況を確認する(20%)。 ②加えて、学期の中間点でレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ③および、学期末にレポート課題を指示し、M-Portを通じファイル提出を求める(40%)。 ④それらの結果に基づき、修得した知識および論理的な思考力・表現力について総合的に評価を行う。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	スライド（パワーポイント）、インターネット、印刷物などを通じて授業に必要な資料を提供する。					

参考文献	・加藤伸司・山口利勝（編著）『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック 21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房 ・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行（著）『はじめて出会う心理学（第3版）』 有斐閣アルマ
事前および事後学習の指示	・授業情報（授業課題、レポート課題など）は、M-Port を通じて提供する。授業の前後にそれらの情報を確認し、課題提出および予習・復習・発展学習のために役立てること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	アタッチメント、発達障害、児童虐待、心の問題、心理学的アセスメント、カウンセリング、心理療法
備考(管理者用)	（旧：心理学）02～19生読替☆SW・SD生は履修不可

講義コード	1480240002
講義名称	憲法B 02<秋>
科目英文名	Constitutional Law B
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	0LAW1010
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
森口 佳樹

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	憲法の基本的内容について解説する。憲法規定の内容を理解したうえで、それをめぐる学説・判例について紹介・検討することとする。憲法Bでは、統治機構を中心に講義する。
学習（到達）目標	憲法規定について、自らが主体的に説明できる能力を身につけてもらうことを目標とする。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	社会権
第3回	参政権
第4回	国務請求権
第5回	国会
第6回	内閣
第7回	裁判所
第8回	司法権をめぐる判例
第9回	違憲立法審査権
第10回	財政
第11回	地方自治制度
第12回	国民主権
第13回	天皇
第14回	平和主義
第15回	統治機構のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	10%
レポート	90%

その他	
-----	--

成績評価の方法 (コメント)	受講生数によるが、基本的には試験に代わる単位認定レポートを主たる評価の対象とする。補助的に数回小テストを行い、補足的な成績評価の対象とする。 単位認定レポートは事例式の問題となり、学説・判例の理解を前提として課題に対する考え方を検討する問題となる。成績報告期限との関係で短期間の提出を求めることもあるので留意されたい。単位認定レポートを提出しなければ単位の認定はできない。
-------------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森口佳樹他	ワンステップ憲法	大学オンライン販売	978-4-7823-0546-1	嵯峨野書院	

参考文献	別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ 第8版」(有斐閣)
事前および事後学習の指示	講義中に指定する判例については、よく復習しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：憲法) 02～19生読替

講義コード	14D5920000
講義名称	国際経済論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	International Economics Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON2655
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
浅海　達也

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	この講義では国際経済論を国際金融の観点から学ぶ。グローバル化の進展に伴い、モノ・ヒトだけでなくカネの国際間取引が増加している。このような国際金融はどのようにして我々の生活に影響するのだろうか。この問いに対して、異なる通貨（例えば円とドル）の交換比率である為替レートに注目して明らかにする。さらにこの為替レートは国際通貨システムによって大きく異なるため、固定為替相場制や通貨統合についても取り扱う。 講義はスライド資料と実際のデータを基に進める。前回の講義と関連がある場合には冒頭で前回の復習を取り入れる。受講者は結果の暗記ではなく、論理的な説明を通じて国際金融の考え方を身に付ける。
学習（到達）目標	この講義に積極的に参加することを通じて、 (1) 為替レートの変化による我々の生活への影響について理解する。 (2) 為替レートの決定メカニズムを理解する。 (3) 財政・金融政策による為替レートへの影響を自分で考えることができる。 (4) 国際通貨システムの変遷と現状を把握する。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス 国際経済論における国際金融 国際貿易と国際金融
第2回	金利と為替レート：アセットアプローチ (1) 【外国為替市場】
第3回	金利と為替レート：アセットアプローチ (2) 【金利平価－短期的な為替レートの決定】
第4回	貨幣・金利と為替レート：マネタリーアプローチ (1) 【貨幣市場】
第5回	貨幣・金利と為替レート：マネタリーアプローチ (2) 【金利と為替レートの同時決定】
第6回	物価と為替レート：マネタリーアプローチ (3) 【購買力平価－長期的な為替レートの決定】
第7回	物価と為替レート：マネタリーアプローチ (4) 【実質為替レート】
第8回	産出と為替レート (1) 【産出市場と資産市場】
第9回	産出と為替レート (2) 【財政政策と金融政策】
第10回	産出と為替レート (3) 【経常収支】
第11回	固定為替レートと外国為替介入 (1) 【外貨準備と貨幣供給】
第12回	固定為替レートと外国為替介入 (2) 【不胎化介入】
第13回	国際通貨システム (1) 【制度の変遷】
第14回	国際通貨システム (2) 【最適通貨圏】
第15回	国際経済論Ⅱのまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	25%
レポート	75%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	試験が25%、各回（第2～14回）の授業内容に関するレポートが75%。 レポートでは各回の授業後に、講義を受けて学んだことを自分の言葉で説明する。 試験では第15回の授業後に、講義内容を理解しているかどうかを確認する。 なお公認欠席を除く欠席が4回以上の場合、成績評価をしないので注意すること。 （遅刻についても、その程度に応じて欠席回数にカウントされる。）
---------------	---

参考文献	P. R. クルーグマン 著 / M. オプストフェルド 著 / M. J. メリッツ 著 / 山形 浩生 訳 / 守岡 桜 訳 (2017) 『クルーグマン国際経済学 理論と政策 〈下〉金融編』丸善出版.
事前および事後学習の指示	事前学習では国際金融に関するニュースや記事を読み、国際金融への関心を深める。 事後学習では講義内容を復習するとともに、その内容がどのニュースや記事と対応しているのか考える。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	国際金融、為替レート、外国為替市場、外国為替介入
備考(管理者用)	（旧：国際経済論）02～10E・CBCC生読替

講義コード	1560550000
講義名称	地域研究ⅡB　＜秋＞
科目英文名	Area StudyⅡB
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
塚田　鉄也

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	近代以降、ヨーロッパ諸国は積極的な対外進出を進め、世界各地の政治や社会に大きな影響を与えてきました。現在のヨーロッパはかつてほど「世界の中心」とは言えなくなりましたが、それでも、日本をはじめとする多くの国にとって重要な参照点であり続けています。本講義では、ベネルクス三国、北欧諸国、南欧諸国、中東欧諸国、ロシア、そしてEU（欧州連合）を取り上げ、歴史的背景、政治の基本構造、現代の争点という三点にわたって検討していきます。
学習（到達）目標	①各国の政治と社会の特徴を、歴史的背景を含めて理解し、説明できる ②各国が直面している問題やそうした問題への対応を理解し、説明できる

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ヨーロッパ研究の意義
第2回	ヨーロッパの多様性
第3回	ベネルクス三国①：歴史的背景
第4回	ベネルクス三国②：基本構造と争点
第5回	北欧諸国①：歴史的背景
第6回	北欧諸国②：基本構造と争点
第7回	南欧諸国①：歴史的背景
第8回	南欧諸国②：基本構造と争点
第9回	中東欧諸国①：歴史的背景
第10回	中東欧諸国②：基本構造と争点
第11回	ロシア①：歴史的背景
第12回	ロシア②：基本構造と争点
第13回	EU①：歴史的背景
第14回	EU②：基本構造と争点
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	2週に1度、計7回実施する確認テスト（WebClassの「テスト」を利用）の平均点により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	二宮書店編集部	データブック・オブ・ザ・ワールド2026	学生独自購入	9784634100190	二宮書店	

参考文献	松尾秀哉ほか編『教養としてのヨーロッパ政治』（ミネルヴァ書房、2019年）
事前および事後学習の指示	テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：地域研究Ⅱ）02～19E・SS・SW・B・L・J生読替

講義コード	15D1010000
講義名称	音楽社会学　＜秋＞
科目英文名	Sociology of Music
開講責任部署	社会学部　社会学科
代表ナンバリングコード	0SOC2510
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
木島　由晶

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	「聴衆」「産業」「メディア」の3つをキーワードに、ロックと社会階層、アイドルとファン、FMラジオとヒット曲、インディーズの歴史、ノリ（groove）の社会性、音楽フェスの祝祭性、音楽配信と著作権、といった事例に注目して、人びとと音楽とのかかわりを多面的に掘り下げていく。身近な音楽現象を題材に、社会の〈今〉を考える力を養う。音楽は、一人で楽しむだけでなく、人びとを結びつける媒介にも、社会を読みとく対象にもなる。この講義を通して、「聴く」「奏でる」「踊る」「歌う」以外の、「学ぶ」楽しみを知ってもらえれば幸いである。
学習（到達）目標	・主観的な感情と区別し、客観的に対象を考察できる。 ・社会学的な概念を適切に用いて、現象を考察できる。 ・授業中の説明を、具体的な例に当てはめて考察できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ロックとジャンルの正統性
第3回	自律化するヒップホップ
第4回	アイドルとファン集団
第5回	観る音楽としてのミュージックビデオ
第6回	ライブにおけるノリ（groove）の学習
第7回	拡大する音楽フェスティバル
第8回	レコード会社とインディーズの変容
第9回	ラジオが作るヒット曲
第10回	広告音楽とタイアップ
第11回	著作権と拡散する作者
第12回	データ化する音楽消費
第13回	ボーカロイドと作曲の時代
第14回	音楽のグローバル化とKポップ
第15回	まとめとふり返り

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	その他は平常点であり、授業後のコメントシート（400字程度）で理解度をはかる。学期末には、2000字程度のレポート課題を課す。
---------------	---

参考文献	木島由晶（2025）『好みで満ちてゆく社会——聴く・遊ぶ・愛でる・移動する文化の社会学』勁草書房。その他、授業中に指示する。
事前および事後学習の指示	学んだ内容を忘れてしまう前に、その日の内容を復習することを大切にしてほしい。講義は前に学んだ内容をふまえながら進めていくので、復習することがそのまま予習につながる。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	ヒップホップ、好み、ラジオ、メディア、アイドル、ヒット曲、ロックフェス、Jポップ、音楽配信
備考(管理者用)	（旧：社会学特講－音楽社会学）02～09生読替（SS・文学部生のみ）

<社会人の方へ>学生が興味を持てるよう、若者向けの内容となっております。悪しからずご了承ください。

講義コード	1620330000
講義名称	経営史B　＜秋＞
科目英文名	Business History B
開講責任部署	経営学部　経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA2440
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小 島　 正 稔

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	---

講義・演習概要	経営史は、企業の経営の仕方がどのように発展し変わってきたかを扱っています。その経営の仕方の視点は、個別企業を分析する視点、企業家的（企業家活動的）視点、企業のスタートアップ（誕生）・事業の創造、産業の形成などの視点があり、地域を日本やアメリカに限定するもの、地域間比較するなどさまざまです。この講義では、多様な視点から、現在の企業と企業社会が作られてきた過程を史的に考察することで、現在の企業社会の仕組みを理解することを目的にします。 講義は個別企業のケースとそれを題材にした学習テーマから構成されます。企業の経営や時代を理解するため、関連した映像資料などによって、過去の経営状況や経営環境を理解した上で、講義では考えながら企業の経営について学びます。
学習（到達）目標	1．企業の経営上の課題を、時代背景とともに説明できる。 2．企業家活動の源泉について、具体的な企業家を例に説明できる。 3．ビジネスシステムの発展について具体的な事例によって説明できる。 4．企業文化、経営理念を具体的な事例によって説明できる。 5．産業の成立と法規制の関係について、具体的な事例によって簡潔に説明できる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	講義のガイダンス 講義の内容、課題への取り組み方を含めた講義への参加の仕方について説明します。
第2回	流通イノベーション（１）スーパーマーケットの誕生と発展
第3回	流通のイノベーション（２）流通革命と卸売業、
第4回	流通イノベーション（３）流通革命にダイエーが果たした役割
第5回	流通イノベーションとコンビニエンスストア（１）　コンビニエンスストアの発展史（鈴木敏文）
第6回	流通イノベーションとコンビニエンスストア（２） ①小売の情報化、②延期と投機、③購買リスクと業態の発達
第7回	流通のイノベーションをもたらした技術連鎖
第8回	物流イノベーションとヤマト運輸 ①戦後の日本経済の発展概略　繊維、造船、鉄鋼、②日本経済のサービス化と産業セクター
第9回	物流イノベーションと新サービスの開拓者　ヤマト運輸の宅配便の開発（小倉昌男）
第10回	企業の成立（渋沢栄一）（１） ①産業革命と殖産工業
第11回	企業の成立（渋沢栄一）（２） ②会社制度の導入（渋沢が導入した会社制度とは）
第12回	フランチャイジング発展史（欧米）
第13回	わが国におけるフランチャイジングの萌芽

第14回	わが国のフランチャイジング発展
第15回	講義のまとめおよび課題解説

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	試験はすべて講義の内容的な区切りの段階で行う。。成績は試験の得点と課題点によって決める。 試験の回数は、進行状況によるが、3回を予定（回数はあくまで進行状況による） 成績は上記を基本にしますが、講義に積極的に参加し、発言や質問をしたものには、発言点を追加することもあります。 毎回レジュメを配布します。テキストは使用しません。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	経営史講義のレジュメ		プリント配布			

参考文献	1からの経営史 宮本 又郎 (編集), 岡部 桂史 (編集), 平野 恭平 (編集)中央経済社 ディッキー『フランチャイジングー米国における発展過程ー』河野、小嶌訳、まほろば書房 1992年。 川辺信雄『新版 セブンイレブンの経営史』有斐閣、2003年 宇田川勝・生島淳『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011年 宮本又郎・岡部桂史・平野恭平『1からの経営史』碩学舎、中央経済社、2014年
事前および事後学習の指示	事前学習 レジュメをダウンロードし、参考文献などで指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	流通イノベーション、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、物流イノベーション、フランチャイジング
備考(管理者用)	(旧：経営史) 02～20生読替

講義コード	1787540000
講義名称	アジア文化研究-アジアの海域世界を歩くB　＜秋＞
科目英文名	Study of Asian Cultures-Beyond the Asian archipelago B
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT2490
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
鈴木　隆史

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	海域世界とは「人々の暮らしや文化の様々な核的部分が何よりも海によって規定されると認められる地域圏」（小野林太郎、2011）と定義される。数万の島々からなる東南アジアの海域世界(フィリピン、インドネシアなどの島嶼国家)」に暮らす人々は、漁撈、採集、製塩、交易、造船、農耕、海賊などを生業として生きてきた。これらの海域を中国人、インド人、アラブ人、マレー人などの商人たちがべつ甲、沈香、蜜蝋、白檀、丁子、ナツメグ、胡椒、真珠などを求めて訪れた。交易は人やモノだけでなく、宗教や言語などの文化も伝えた。大航海時代から300年以上もの間、西欧諸国による植民地支配、日本軍による占領・統治を経て独立する。ヒトやモノが自由に行き来した海域世界は国家や国境によって分断されたが、人々は今も海と深く関わりを持ち生きている。本講義では、1)アジアの海域世界がどのように形作られてきたのかを歴史的に捉え、2)その海域世界に生きる人々の現在を漁撈・採集を行う航海民、海産物商人など具体的な生業とその特徴について学び、3)グローバリゼーションが進展する今、海域世界がどのような変化にさらされ、人々の暮らしはどのように変わろうとしているのか、さらに 4)アジアの海域世界に生きる人々の暮らしと私たちの暮らしのつながりについても具体的なモノを通じて学び、考える。 学習（到達）目標
学習（到達）目標	アジアの海域世界とはどのような世界なのか?そこに生きる人びと(海に生きる人びと)の多様な暮らしについて学ぶと同時に、海を通じてヒトとモノが移動し、結びつき、ダイナミックな世界を作っていることを知る。そこには国境や海境を自由に越えて行き来する海の民が暮らししてきた。海に生きる彼らの暮らしから国家や国境を相対化することができるようになる

講義・演習計画

回	内容
第1回	1) 江戸幕府を支えた海産物の輸出と中国宮廷料理の発達 俵物三品と呼ばれたフカヒレ、ナマコ、アワビ 日本は特殊海産物の一大輸出国だった
第2回	2) 白蝶貝(真珠貝)を求めて海を越えた日本の海民たち 1) 紀州の出稼ぎ漁民(ダイバー)とアラフラ海(アル島、木曜島など
第3回	3) 魚を求めて海を越えた日本の海民たち 2) 沖縄のウミンチュたち 高瀬貝採取、追い込み網、カツオ一本釣り
第4回	4) 水産物市場拡大とアジアの海域世界 1) エビトロール漁業の拡大と資源の乱獲、漁民紛争
第5回	5) 水産物市場拡大とアジアの海域世界 2) エビ養殖と環境破壊 集約池と粗放池 マングローブ林の破壊と再生
第6回	6) 水産物市場拡大とアジアの海域世界 3) アラフラ海における南洋真珠養殖と日本人技術者
第7回	7) 水産物市場拡大とアジアの海域世界 4-1) 中国の経済発展と特殊海産物需要の急増 ナマコをめぐる漁場紛争
第8回	8) 水産物市場拡大とアジアの海域世界 4-2) 中国の経済発展と特殊海産物需要の急増 フカヒレを求めて国境(海境)を越える海民たち
第9回	9) 水産物市場拡大とアジアの海域世界 4-3) 中国の経済発展と特殊海産物需要の急増 活魚の道と華人ネットワーク 活魚は海を越えて香港・シンガポールへ
第10回	10) 水産物市場拡大とアジアの海域世界 5) マグロと日本のODA、空飛ぶマグロ(バリー成田漁港)
第11回	11) 日本の漁業危機とアジアの海域世界 1) 乗組・従業員不足と外国人労働者(マグロ漁業、水産加工場) 人権侵害(奴隷労働)
第12回	12) 変貌するアジアの海域世界 1) 漁船の大型化・輸出水産物価格の高騰がもたらす資源乱獲の危機
第13回	13) 変貌するアジアの海域世界 2) 破壊型漁業、越境漁業の横行と海民たち
第14回	14) アジアの海域世界の未来 1) アジアの海域世界から学ぶ
第15回	15) アジアの海域世界の未来 2) 持続可能な社会に向けて

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	70%
その他	30%

成績評価の方法（コメント）	出席は毎回の授業のレポート提出による。評価は毎回の提出課題(レポート)と最終レポートによって評価する。
---------------	---

参考文献	鶴見良行著『ナマコの眼』筑摩書房1990年、ISBN4 - 480 - 85522 - X、同『街道の社会史』1987年朝日新聞社、ISBN4 - 02 - 259430 - 6 鶴見良行・村井吉敬編著『道のアジア史』同文館1991年、ISBN4 - 495 - 85581 - 6、村井吉敬著『サシとアジアと海域世界』コモンズ、199 8年、ISBN4 - 906640 - 10 - 9 北窓時男著『熱帯アジアの海を歩く』成山堂書店2001年、ISBN4 - 00 - 415074 - 4、秋道智彌著『海人の世界』同文館1998年、ISBN4 - 495 - 86291 - X 小野林太郎著『海域世界の地域研究』京都大学学術出版会、2011年、ISBN978 - 4 - 87698 - 995 - 9、小島曠太郎著『クジラと生きる』中公新書、 1999年
事前および事後学習の指示	授業前にM - portにアップした資料などに目を通しておくこと
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	海域世界、特殊海産物(フカヒレ、ナマコ、ツバメの巣)、交易、国境、サシ、エビ、マグロ
備考(管理者用)	(旧：アジア文化研究－アジアの海域世界を歩く) 02～10E・06～10CBCC・02～17L生読替

講義コード	17A9440000
講義名称	学科特殊講義-人物からみる中国史　＜秋＞
科目英文名	Lecture on Special Topic-Great Figures in Chinese History
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	CULT3440
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
辻　高広

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)

講義・演習概要	歴史は人と人との関わりの中で形成されるものである。本講義では中国を中心に、古代から近代に至るまでの個々の人物に焦点を当て、彼らの思想・行動を通して、彼らの生きた時代を読み取ることを目的とする。 ※本講義では中国の歴史について、高校世界史レベルの知識を有することを前提とする。授業の最初に適宜小テストを行なうので知識に自信のない者は事前に高校の教科書などを読んで学んでおくこと。 ※この授業ではM-Portや各種情報検索ツールを積極的に使用する。レジュメなどはM-Portを通じてpdfで配布する予定であり、受講時にはPCやタブレット端末などの持参を推奨する。
学習（到達）目標	個々の人物がその置かれた社会的・政治的・経済的状況を理解し、対応することで歴史を織りなしていったか、その動態について理解することができる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス
第2回	孔子―百家争鳴の時代
第3回	秦の始皇帝―史実からみた『キングダム』の時代
第4回	武帝と司馬遷―『史記』の時代
第5回	曹操・劉備・孫権―『三国志』の時代
第6回	煬帝と李世民―東アジアの大帝国
第7回	朱熹と王陽明―朱子学と陽明学
第8回	中間まとめ
第9回	チンギスハーン―モンゴル世界帝国の時代
第10回	洪武帝と永楽帝―中華帝国の復活
第11回	ヌルハチと鄭成功―明清交替
第12回	康熙・雍正・乾隆帝―中華帝国の完成
第13回	孫文と溥儀―中華帝国の終焉
第14回	蔣介石と毛沢東―現代に至る道
第15回	総まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	40%
レポート	40%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	学期中に各テーマの内容理解度を確認する複数回の小テストを、学期末には授業内容全体の理解度を確認する試験を課す。また、学期中に複数回のミニレポートを課す。
---------------	--

参考文献	尾形勇・岸本美緒編『新版世界各国史3 中国史』山川出版社、1998年 講談社『中国の歴史』シリーズ（全12巻）、2004年～2005年 集英社『アジア人物史』シリーズ（全12巻）2023～2024年 木村靖二ほか著『詳説世界史』山川出版社、2017年改訂 その他各テーマに関わる参考史料は授業中に適宜指示する。
事前および事後学習の指示	授業前には指示する時代について、高校教科書および参考文献に目を通し、その時代背景について基礎的な知識を身につけておくこと。授業後には講義内容について確認し、理解不足の点があれば質問すること。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間

講義コード	1C02420000
講義名称	歴史学〔2〕-近代以降期の堺・泉州　＜秋＞
科目英文名	History-History of Sakai and Senshu Area During Japan's Transition to Modern Times
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	HIST1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
島田　克彦

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	この授業では、近代への移行期を中心に、堺・泉州の地域史を学びます。堺・泉州では、古代・中世の歴史を経て、近世（江戸時代）には身分制社会が形成されます。この近世身分制社会は、「御一新」と呼ばれた政治変革を経て、どのように変容していったのでしょうか。授業では、伝統的な地域と人びとのありようが近代（明治時代）に変容していく過程を、堺・泉州の各地域に伝えられた歴史資料から読み解きます。この授業での学びを通じて、歴史上の地域を生きた人びとによる生活構築の営みを、豊かに描いていきましょう。
学習（到達）目標	地域歴史資料から、近代移行期の歴史像を読み解くこと。 地域に伝えられた歴史資料についての認識を形成し、深めること。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション　授業の進め方等について説明します。
第2回	泉州の自然環境と地形
第3回	堺・泉州の地域史　―「寺社勢力」を中心に
第4回	堺・泉州における近世のはじまり
第5回	近世における都市と農村　―近世都市・堺―
第6回	近世における都市と農村　―村請制とその担い手―
第7回	堺・泉州における領主制の展開
第8回	中間まとめ
第9回	戊辰戦争と堺・泉州
第10回	領主制の解体、統治機構の再編と堺県
第11回	地域における寺社の再編―「祭政一致」がもたらすもの―
第12回	村の土地と人びと―土地所有権の成立―
第13回	信太山演習場の成立と信太地域―「富国強兵」政策と地域―
第14回	後半のまとめ
第15回	全体のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	55%
その他	45%

成績評価の方法（コメント）	毎回の授業でコメントシートを提出していただきます。内容を評価して「その他」に組み込みます。
---------------	---

参考文献	和泉市史編さん委員会編『和泉市の歴史』各巻　2005年～2025年 ダニエル・V・ボツマン、塚田孝、吉田伸之編『「明治一五〇年で考える一近代移行期の社会と空間」山川出版社、2018年 松沢裕作『日本近代村落の起源』岩波書店、2022年 島田克彦「近代移行期の地域に生きた人びと」『桃山学院大学経済経営論集』第65巻第2号、2023年 島田克彦『近代日本の地域社会における土地所有構造－泉州山間部・大阪湾岸の土地商品化』日本経済評論社、2025年 その他、授業中に適宜紹介します。
事前および事後学習の指示	授業の資料を使って復習をしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	堺・泉州　近世身分制社会　近代移行期　地域史　地域歴史資料
備考(管理者用)	（旧：共通教養特別講義－近代以降期の堺・泉州）16～19生読替

講義コード	1N06050000
講義名称	日本法制史B　＜秋＞
科目英文名	Japanese Legal History B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW2590
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
的場　かおり

授業形態	講義
------	----

アクティブ ラーニング の詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート ディスカッション(話し合い) 協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)
-----------------------	---

講義・演習概要	明治以降の日本は西洋諸国に追いつこうと、国家主導で各種法典の整備や資本主義経済の発展、植民地の獲得などに邁進します。しかし第一次世界大戦を契機に、国内外で民主主義やナショナリズムを求める運動、社会的・経済的に弱い立場の者を守ろうとする運動が活発になり、従来の「近代法」原理に基づく法制度・国家制度で対応することが難しくなります。 講義では、植民地経営や資本主義経済を支えた法制度などを素材に、第一次世界大戦の「前／後」での変化を考察します。そうすることで「近代法」の弊害・問題点はどこにあるのか、そしてそれらを克服するべく誕生した「現代法」はどのような特徴をもつのかを明らかにします。 ※「日本法制史A」を前提とする内容も多いため、「日本法制史A」の受講を終えていることが望ましいです。
学習（到達）目標	①「歴史で法を読み解く力」が身につきます。高校までに学んだ「歴史」を「法」の観点から見直すことで、現行法の「基礎」がどのようにして形成されたのかを理解し、現行法の基礎知識をより深めることができます。 ②「比較する力」が身につきます。時代や国・地域の比較を通して、多面的・相対的に法・制度を考察し、現行の法・制度の抱える問題を解決できるようになります。

講義・演習計画

回	内容
第1回	ガイダンス（講義の進め方・成績評価・講義の目的）
第2回	地方自治法制①制度と運用
第3回	地方自治法制②思想と理念
第4回	軍事法制
第5回	植民地法制①台湾
第6回	植民地法制②朝鮮
第7回	民法①フランス民法と旧民法
第8回	民法②ドイツ民法と明治民法
第9回	民法③家族法制
第10回	土地法制
第11回	財産法制
第12回	商事・産業法制
第13回	現代法①労働と法
第14回	現代法②社会保障と法
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	90%
レポート	
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	①試験90％：最終試験の成績を評価します。 ②その他10％：講義への貢献（講義内での発言、コメントシートの提出など）を評価します。
---------------	--

参考文献	・岩谷十郎・松園潤一郎・高田久実編著『よくわかる日本法制史』（ミネルヴァ書房、2025年） ・伊藤孝夫『日本近代法史講義』（有斐閣、2023年） ・川口由彦『日本近代法制史〔第2版〕』（新世社、2015年） ・山中永之佑編『日本近代法案内ーようこそ史料の森へ』（法律文化社、2003年） ・山中永之佑監修『日本現代法史論』（法律文化社、2010年）
事前および事後学習の指示	【事前学習】 ・配信されたレジュメおよび資料にしたがい、指示された事前学習に取り組む 【事後学習】 ・解説に用いられたスライド資料を確認しながら、講義内容をリフレクションする ・参考文献などを用いて、自分の関心を掘り下げるとともに、自分の意見をまとめる
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	自治、植民地、民法典論争、財産法、家族法、労働法、社会保障法
備考(管理者用)	(旧：日本法制史) 17～19J生読替☆ (旧：法制史-日本法制史) 02～16J生読替